

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】地震・津波対応避難訓練の二段階での実施		
学校名	光市立やよい幼稚園		
日時	平成25年5月20日(月)・12月2日(月)		
場所	幼稚園・岩狩グラウンド	参加者	園児・教職員

1 訓練のねらい

- (1) 地震や津波の怖さを知らせ、地震や津波に対する避難方法を理解し行動できるようにする。
- (2) 慌てない・騒がない・押さないの3つの約束と“だんごむし”体形を、しっかり身に付けさせる。
- (3) 教職員の連携や役割分担をしっかりと確立し、保護者引き渡しまでの手順を明確化する。

2 訓練の概要

<5月>

- 地震の怖さを紙芝居で知らせる。
- 津波の避難場所確認のため、岩狩グラウンドまで避難する。
- ゆっくり階段を登り、慌てない・騒がない・押さないを守って訓練する。

<11月>

- 消防署で地震体験をする。

<12月>

- 地震発生、机の下に避難する。
- 津波発生、3つの約束を守りながら、できるだけ急いで避難場所まで避難する。
- 避難開始から完了まで時間を計るとともに、保護者や子ども家庭課などへの連絡体制をとる。

① 地震発生



机の下へ“だんごむし”で避難

② 津波発生(約5分で岩狩グラウンドへ避難)



二次避難



岩狩グラウンド

3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 年間2回の地震津波に関する避難訓練を行うことで真剣さが増し、避難するのに機敏さが感じられた。
- ◇ 園児優先のため、非常用持ち出しはなるべく少なくした方がよいことが分かった。
- ◇ 避難後の対応(保護者対応・避難場所での対応)については、教職員同士の連携や役割分担を確認できた。

【課題】

- ◆ 天候・道が通れないなどいろいろな場合を想定しての訓練が必要ではないか、検討を要する。
- ◆ 地域や隣接する小学校との連携強化に努めていきたい。